

指導教員名	田中康仁
-------	------

活動区分	フィールドワーク	連携先	企業
	問題解決型		

～ ロジスティクス研究発表会 ～

活動の様子



企画・活動概要

学外の社会共創事業として、日本ロジスティクスシステム協会が主催する3大学(流通科学大学、神戸大学、大阪産業大学)合同研究発表会に参加した。サンスター株式会社に協力いただき、日用雑貨業界において、1)ロジスティクス視点でSDGsにどのように対応すべきか、2)災害時に物流を止めないためにどのように対応すべきか、3)デジタル化で物流をどのように変えるべきか、のテーマより1つを選んで提案・発表を行った。

経緯・背景・目的

大学における物流・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメント(SCM)・流通関連のゼミ生を対象に、企業による事例紹介、および研究課題の出題からなる「講演会」と、課題研究にとりくむ学生を対象とした「フォローアップミーティング」、研究成果を発表する「研究発表会」を実施。日雑貨業界や企業の現状・課題の共有、企業人との情報交流を通じて学生のロジスティクスへの理解を深め、この分野を支える人材の育成を支援することがロジスティクス研究発表会の目的である。



取り組む課題

- (1)大学生のための「ロジスティクス講演会」
企業のロジスティクスに関する事例講演とともに、学生へ研究課題を出題。会場参加・オンライン参加選択形式で開催。
- (2)研究発表会に向けた「フォローアップミーティング」
研究発表会にエントリーした学生を対象に、アドバイザーおよび事例講演講師による質疑応答の会合。
- (3)大学生による「ロジスティクス研究発表会」
①ロジスティクス視点でのSDGs対応、②災害時の物流、③物流のデジタル化、の3テーマから選り解決案の提案・発表。

本学(学生)の役割

研究演習Ⅰ(2年生)のゼミ生12名が3チームに分かれて、調査分析を行い、3つの課題テーマ(①ロジスティクス視点でのSDGs対応、②災害時の物流、③物流のデジタル化)に対する発表を行った。会場では、オンライン参加を含む約50社の物流企業からの質疑応答、コメント対応も行った。
 <3チームの発表テーマ>
 Aチーム:「SDGsにおけるホワイト物流」
 Bチーム:「津波浸水時におけるコンビニ・スーパー・ドラッグストアへの災害物流ー西宮市を対象としてー」
 Cチーム:「スマートマツを活用した物流DXの検証」



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

事後アンケートの結果、発表会の満足度は「大変良かった:53%」、「良かった:42%」、「普通:5%」、「あまり良くなかった:0%」と学生の評価は高かった。また、自由意見では以下のような声も聞かれ、①プレゼン力の向上、②企業の方の意見が聞ける貴重な機会、③他大学との交流および刺激を受けた、点で学生が成長を実感できている。
 ・発表の準備は大変だったが、良い経験となった。企業の方へのプレゼン力も身についた。
 ・他大学の発表を聞ける良い機会であった。自分たちとは異なる意見・提案に触れることができた。



指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



商学部
マーケティング学科
准教授
田中康仁(タナカ ヤスヒト)
＜専門・担当科目等＞
物流・サプライチェーンマネジメント論

<関係者・企業等>

日本ロジスティクスシステム協会
関西支部
大西 康晴(オオニシ ヤスハル)

学生にとって物流の問題に触れる良い機会となりました。改めて、日本ロジスティクスシステム協会大西様、サンスター株式会社荒木様にお礼申し上げます。